

・インド南部でニパウイルス感染症が流行

インド南部のケララ州で、5 月からニパウイルス感染症により少なくとも 12 人が死亡しました (ProMED 2018-5-22)。患者の多くはコウモリに接触していますが、患者が入院した病院の看護師も死亡した模様です。ニパウイルスは大型のコウモリが保有するウイルスで、ヒトが感染すると重症の脳炎をおこします。コウモリとの接触やコウモリが触れた果物を食べて感染します。1998 年にマレーシアで初めて流行が確認された後に、インドやバングラデッシュでも流行が発生しています。流行地域ではコウモリに接触しないよう注意するとともに、果物を食べる時は表面をよく洗うなどの注意が必要です。

・東南アジアでのデング熱の流行

東南アジア各国から報告されるデング熱の患者数は、今のところ昨年よりも少なく、まだ大きな流行はおきていません (WHO 西太平洋 2018-5-10)。6 月から多くの国が雨季を迎えるため、これから本格的な流行が始まることが予想されます。

・コンゴ民主共和国でエボラ熱の流行が発生

4 月初旬、コンゴ民主共和国の北西部にある赤道州でエボラ熱の流行が発生しました (WHO 2018-5-23)。患者数は 5 月 21 日までに 58 人 (疑いも含む) にのぼっており、うち 27 人が死亡しました。患者のほとんどは郊外での発生ですが、ムバンカという人口 100 万人の町で患者が 1 名確認されており、流行がさらに拡大することが懸念されています。WHO は Merck 社が開発中のワクチンの接種を医療関係者を中心に開始しました (WHO 2018-5-21)。コンゴ民主共和国では 1976 年から今回を含めて 9 回のエボラ熱の流行が発生しています。

・ヨーロッパで麻疹流行が拡大

今年はヨーロッパ各地で麻疹の患者数が増加しています。フランスでは 5 月中旬までに 2,173 人の患者が確認されており、最近 1 カ月で 500 人以上増えています。患者の半数は南西部の Nouvelle-Aquitaine での発生です。この他にギリシアで 1,948 人、イタリアで 805 人、英国で 404 人の患者が確認されています。夏休みなどにヨーロッパを旅行する人は特に注意が必要です。

なお、今年は麻疹ワクチンの接種者が増えており、流通量が十分ではありません。日本では 20 歳代後半から 40 歳代前半の人が麻疹の抵抗力が弱いとされていますが、検査で抗体陰性を確認してから接種を受けることをお勧めします。

・ブラジルでの黄熱流行状況

ブラジルでの黄熱患者数は 5 月になり減少傾向にあります。その一方で、WHO は今後、流行地域が南部の Parana 州や Santa Catarina 州に拡大する可能性を発表しています (WHO 2018-5-3)。また、チェ

この旅行者がブラジル訪問から帰国後に黄熱を発病しました。この事例を含め今年になりヨーロッパ人6人がブラジルで黄熱に罹患しています(ヨーロッパ CDC 2018-5-4)。今後も、ブラジルに滞在する際には、黄熱ワクチンの接種を受けることを推奨します。

・米国CDCがベネズエラへの不急不要の渡航を避けるよう勧告

南米のベネズエラでは経済の低迷などにより保健医療システムが正常に稼働していない状況が続いています。このため、今年になり麻疹、ジフテリア、マラリアなど感染症の流行が全土で拡大しています。こうした状況を考慮し、米国CDCはベネズエラを危険度レベル3(不急不要の渡航を避ける)に指定しました(米国CDC Traveler's Health 2018-5-15)。ベネズエラには日本からの観光客に人気のギアナ高地がありますが、現地に渡航を予定している場合は十分な感染症対策が必要です。